

「光あるうちに光の中をすすめ！」

匠会の活動が各方面からの注目を集めています。8月29日夏休み明けの与板小学校で、4年生62名が伝統産業の打刃物を体験。

まず打刃物の製作工程のDVDを見て学び、めいめいが小刀を使っの慣れない鉛筆削りにも挑戦。その後にいよいよ会員の指導で、実際に鉄を打って切り出し（小刀）を造る体験をしました。



「職人さんはすごいなと思いました」「鍛接ということを学びました」と子どもたち。

小刀を使っのえんぴつ削りも、子どもたちにはワクワクハラハラの新鮮な体験だったようです。

次代を担う子どもたちに地域の伝統と技を伝えることの意義を確認した一日でした。今後も積極的に取り組みたい事業です。



国際ギフトショーで 職人の技をアピール

9月5, 6, 7日三日間の会期で、東京ビッグサイトで開催された「ギフトショー」。初出展の越後与板打刃物、さてその成果と感想は？ 会員の声を拾いました。

- ・総来場者19万人という見本市で、そのスケールと多彩なブースの数に圧倒された。
- ・じっくり見て行こうという人よりも早く数を多く回ろうという顧客が多く、大半はネット通販等の業種。広く浅くで焦点が定めにくい感じがしたが、流通の世界というものを実感した。
- ・良いものが欲しいという声を聞いた。毛色の変った眼を引く製品も必要だと感じる。
- ・単発ではなく継続して行くことが信用と実績を高めることになる。出展場所も回を重ねると有利な場所を得られるので継続していきたい。
- ・一つの出会いがきっかけとなる可能性を感じた。後日の問い合わせも合計で約10社あった。

「良い刺激になった」との総括。今回初めの一歩であり、「打刃物の与板」の名を掲げた出展としてはまずまずの滑り出しでした。匠会の結束を強化する機会にもなりました。